



真宗高田派本山 専修寺

高田本山だより

令和5年 春号

133



高田本山 HP

令和5年春号（第133号）／発行・令和5年3月10日／〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp

お七夜の賑わいも復活

本年は、いよいよ

開山親鸞聖人御誕生八百五十年

立教開宗八百年

中興真慧上人五百年忌

聖徳太子千四百年忌

の奉讃法会をお迎えいたします。

混沌とした今こそ、

お念仏のみ教えを聞きひらき、

奉讃法会をお迎えいたしましょう。



『なもあみだぶつ』を聞くということ

高田派鑑字・誓元寺住職

栗原廣海



一、語られた仏と浄土の風光

前回、真実の仏や浄土は「無分別智」によってこそ知ることのできる境界であり、私たちの「分別」ではとらえることのできない「ひかり」のような存在であり、世界であることを知ることができました。しかしこのままでは、私たちには、仏や浄土のことは何もわからないままになってしまいますね。

そこで如来（仏）は、私たちにもわかるように、仏や浄土のことを言葉でお説きくださいました。それがお経に説かれている仏や浄土のすがたです。

「言葉では語れない世界を言葉で

語ったって、それどういうこと？矛盾してるんじゃないの？」と疑問に思われるかもしれませんね。なぜそんなことができるのかを考えてみたいと思います。

それは、「無分別智」を得た人は、「後得智」を得るからだと言われます。「後得智」は「後得清浄世間智」とも言われます。字のとおり、「無分別智を得た後に得られる清らかな世間智」ということです。

では「清らかな世間智」とはどういうものでしょうか。「世間智」というのは、「分別智」と言っても同じで、前回お話ししたように、主観的な価値判断をする、言葉の世界におけるひとりよがりな執われの知恵のことです。しかし、ここ

ではそれが「清浄」だと言われます。「清浄」ということは、煩惱を離れていること、執われないことです。すから、「清浄世間智」とは、相対的な言葉の世界にありながら、執われない、真実に裏付けられた「分別智」ということになります。そんな「清浄世間智」を、仏は「無分別智」に達することによって得ることができるのです。だから、「後得清浄世間智」と言われるのです。

「後得清浄世間智」を得た仏は、言葉を超えた真実の世界を言葉であらわし、迷い苦しんでいる世間の人びとを、迷いを超えたまことの世界へと導く「教え」を説くことができます。そして、この「教え」が仏によって説かれているのが「経典」つまり「お経」なんです。ですから、お経の言葉も私たちが使っている言葉も、言葉としては同じですが、その質は決して同じではありません。

お経に説かれている仏や浄土の風光は、如来が「後得智」によって説かれた、言葉による真実の世

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075) 371-0854・8181～2番
FAX (075) 344-2701番
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年



松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 野村守宏

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

界だったのです。

二二種類の仏さま

分別を超えた最高の真実の世界と分別された真実の世界との関係は、また、聖人が尊崇される中国の曇鸞大師によって次のように説かれています。

仏や菩薩がたには二種の法身がある。一つには法性法身、二つには方便法身である。

法性法身によって方便法身を生じ、方便法身によって法性法身をあらわす。この二種の法身は、異なつてはいるが分けることはできない。一つではあるが同じとすることはできない（『浄土論註』）。

この説に基づいて、聖人は『唯信鈔文意』のなかで、

仏には二種類の仏身があります。一つに法性法身、二つに方便法身です。法性法身は、いともなくかたちもありません。で

すから心で考えることもできず、言葉であらわすこともできません。この法性法身から、方便法身というすがたをもつてあらわれ、法蔵比丘と名告つて不可思議の四十八の大誓願をたて、それを成就された仏を、世親（天親）菩薩は尽十方無碍光如来と名づけられました。

とおっしゃっています。如来は、私たちの分別ではとらえることのできない、最高のさとりの世界に入らせるために、いともかたちもな

い「無分別智」の世界から、分別できる「方便法身」というすがたをとつてこの世界にあらわれてきてくださいました。それが『無量寿経』に説かれている法蔵菩薩（比丘）であり、四十八願を成就してなられた阿弥陀如来（尽十方無碍光如来）なのです。

『無量寿経』に説かれる法蔵菩薩の物語と阿弥陀如来の浄土の描写は、「後得智」によつて「方便法身」を説き、私たちを浄土へといざなう如来の無上の方便の世界であるということができるよう。



報恩講での復演

日本古来より伝わる土壁の家づくりと伝統建築の保護・再生
土壁・漆喰・竈の伝統技術を守り継承していきます

一層築舎

Sochikusya Co., Ltd

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusha@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店



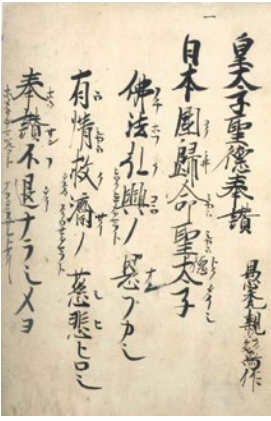
代表取締役社長 今岡規代
●本社
京都市下京区堀川通
新花屋町角（西本願寺前）
TEL 075-351-1234
TEL 0120-075-720
FAX 075-341-7905
●東京店
160-0008
東京都新宿区四谷
二栄町十四番地二一
TEL 03-3358-1500
FAX 03-3359-8902

オンラインショップを開設しました

聖徳太子シリーズ6 御開山 親鸞聖人と聖徳太子 2

京の都六角堂、聖徳太子夢告のお勧めにより、二十九歳の御開山親鸞聖人は、師となる法然上人に迎えられ、専修念佛のみ教えに皈依されました。

その後は、ご縁によって越後に移り、やがて関東へ下られては、およそ二十年間の布教を為され、高田派の礎を築かれます。そして還暦の頃には故郷の都へお帰りになり、九十歳にてご入滅されるまで、師を通してお聞きになったお念佛のみ教えを顕し、関東に残してきた御同行にも応えるべく、数多くのお手紙や書物を著されました。



真仏上人書写の『皇太子聖徳奉讃』（専修寺蔵）

さて、その晩年である建長七年

（一二五五年）八十三歳の頃、御開山は『皇太子聖徳奉讃』をご撰述になります。これは、お念佛のみ教えを「和らげ讃め」、読み書き不得手な当時の御同行にもひろく伝わる事を念じて詠われた「和讃」のひとつであり、およそ二百首にも亘って著される聖徳太子讃仰のご和讃であると親しまれています。

まず、このご和讃の第一首には、
日本国帰命聖徳太子

佛法弘興ノ恩フカシ

有情救済ノ慈悲ヒロシ
タスクスクワセタマフト

奉讃不退ナラシメヨ
ホメタテマツルコト オコラザレトナリ

と示され、「佛法を日本の大地に根付かせて弘めてくださった聖徳太子のご恩と、迷い悩むご自身を励まし法然上人へと導いて、お念佛ひとつでたすかる道をお勧めくださった

太子のお慈悲とを、深く感恩せしめられますと、ほめたてまつる事を決して怠れない」と、夢告より遙か五十年以上を経ても猶、太子の恩徳に深く謝するお姿がうかがわれます。

そして、御開山が太子和讃に必ず詠われる「奉讃」とは、『皇太子聖徳奉讃』奥書に「拝見奉讃ノ人ハ南无阿弥陀佛唱フベシ唱フベシ」と記されている通り、佛より念ぜられお念佛を称えるという事であり、同時にそれは本年五月予定の大法会テーマである「弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞いてゆこう」という事に他なりません。

このように御開山が生涯大切にされたお味いを共に慶ばせて頂いてきた高田派では、いよいよ聖徳太子「奉讃」のお心を、御同行の皆様と各地でご相続させて頂く事へとなるのです。

（教学院第三部会）

※ご和讃の左に添えられたカタカナは、「左訓」という、御開山ご自身が、お言葉の味わいを、お示しくくださったものです。

4/3
スタート

新・ええじゃないか

～いい旅 いい発見～

毎週月曜 19時00分～19時55分（毎週土曜 12時再放送）

～忍び者の生きる道～

毎月第4土曜 21時00分～21時55分放送
（翌月第2土曜 21時再放送）

MTV 三重テレビ放送

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈籠

高級御影石専門店
御影石材株式会社
〈石に御用の方は〉 イシニゴヨメ
0120-142540
本店 津市広明町（影見寺門前） ☎059-224-1700（代）

宝物館について

新宝物館建設工事も残りわずかとなりました。
新宝物館のオープンは令和5年5月21日です。

オープンに先立ちまして、1月9日から2月16日まで日本博の一環として文化財活用室を先行公開としプレオープンいたしました。

VRで魅せる専修寺の絵画・彫



先行公開の様子

刻が放つ浄土世界の美のオーラを題材に、経典で描かれた極楽浄土の世界を最新技術で表現しております。

プレオープンはお七夜期間中も開催しており、多くの方々にご来館いただきました。また多少の混雑は見受けられましたが大きな混乱も無く大盛況のうちに終了させていただきました。

なお、ご来館いただきました皆さまには、アンケートにご協力いただきました。

今回は文化財活用室のプレオープンということで、一部の映像のみの公開となりましたが、宝物館

オープン後には正式版が体験できます。また、法宝物の特別展示の企画展も新宝物館オープンに併せて開催いたします。企画展では高田本山専修寺が所有している法宝物で、今までの展示会では出展しなかった法宝物も展示する予定でございますので、皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

●特別法要について

5月21日より執り行われます特別法要が近づいてまいりました。

高田本山でも徐々に法要の準備が進んでおります。

特別法要のお勤めは各日11時より読経いたします。開山親鸞聖人御誕生850年奉讃法会をはじめ、立教開宗800年奉讃法会など50年に一度の貴重な法会となります。

法会期間中は、国宝如来堂にて行われる特別読経（申し経）の予約を受け付けております。普段は

永田文昌堂

新刊

①響生のこころ

川添 泰信著

定価2,200円(税込)

著者がこれまでに各所に寄稿したものの、講演等で話した内容を一冊にまとめた法話集。主な内容として、彼岸会に先祖を思う / 二河白道の教え一確かな生き方 / 「おくりびと」は「オクラレビト」 / 師と弟子「みちびき」と「とぶらい」 / 半身の死を生きる / など。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031

新刊

②〔僧侶向け解説〕

歿異抄受託の覚如 聖教化解放の蓮如

尾野 義宗著

定価2,750円(税込)

現在も、覚如上人と蓮如上人による本願寺教団の形成は、『歿異抄』を禁書にしたから成功したという説がある。だが、それは明らかな誤解であるということを、歴史的資料も踏まえながら詳しく解説する。

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

対話から生まれる情報発信や
フロンティアを拓いて！

三重に暮らす・旅する WEB マガジン

OTONAMIE

otonamie 14,500フォロワー突破！
mail otonamie@gmail.com
tel 059-268-3538 (壽印刷工業株式会社)



お寺の実績
紹介記事

お寺とともに
地域をつくる。

僧侶しか入ることが出来ない国宝
如来堂の中陣にて行われるお勤め

で、ご両親やご先祖様の法名を如来堂本尊の前に掲げることが出来るまたとない機会です。高田派檀信徒のみ申込できる特別な体験となっておりまして、ぜひともお申し込みください。

お申込みいただきました方には、一イベントの席確保ならびに記念品授与がございます。その他にも様々なイベントを予定しておりますので、是非ともこの機会に

ご参拝くださいますようお願い申し上げます。

※奉讃法会の詳細は、特別法要ホームページをご確認ください。

また、特別法要期間中は臨時駐車場もご用意しておりますが、台数にも限りがございますので、皆さまお誘いあわせの上、公共交通機関などをご利用いただきますようお願い申し上げます。

「高田派中興真慧上人とその時代」をテーマに
奉讃法会記念シンポジウムを開催いたします。

・日時 令和5年3月17日（金）

・会場 高田会館ホール

一、基調講演 午後1時30分～2時30分

山田雅教 師（浄土真宗本願寺派西勝寺住職）

太田光俊 氏（三重県立博物館学芸員）

清水谷正尊 師（真宗高田派鑑学）

二、シンポジウム 午後2時40分～3時40分

栗原廣海 師（真宗高田派鑑学）

申込方法…聴講希望の方は教学院まで電話・FAX・メールでお申し込みください。その際、申込者の住所・氏名・連絡先をお知らせください。

TEL…059・236・3088（平日9：00～11：00）

FAX…059・236・3091

Mail…kyougain@senji.or.jp

※3月16日が締め切りとなっております。

「開拓者とともに」 真宗高田派専修寺 北海道別院



北海道16ヶ寺のご寺院

在するのであります。

開基ご住職たちの開教に

おける熱意の篤さはいか

ばかりであったでしょう

か。北の大地極寒の北海

道、開拓者とともに支え

あい、説教所から寺院へ

と発展していき100年

以上の月日が過ぎました。私たち

には想像を絶する苦難悪条件を乗

り越え、現在の各ご寺院の姿が存

明治25年春、札幌市中央区南二

条東四丁目に縁故の信徒をたどつ

て土地を賃借して説教場の創設を

企て、開教の事情を本山に建議し

ました。ここに専修寺北海道別

院の基礎が定まりました。後に

100年後の平成4年、建物の老

朽化もあり、寺基移転。堂宇建立

と大事業を20代輪番 島義導氏の

明治25年高田本山専修寺第21世

亮熙上人の代、上人の強い願いを

背景に出見法泉殿、長井真応殿両

名によって、高田派北海道開教の
第一歩が記されました。

もと、僧俗一丸となってみてごに成就し、広大な清田区平岡の地に仏閣諸堂が完成されました。現在開基130年を迎えることとなりました。

現在の北海道別院の体制は法務職員3名、用務員1名、輪番と常に定期的な役員会議を開催し、3年間も続くコロナ感染症対策には各法要等の開催に苦慮してまいりました。

そこで単発的ではありませんでしたが、『三日坊主』と称して、晨朝勤行を檀信徒皆様にYouTube配信したところ参加され見ていただける方も多く、各彼岸・永代経・報恩講なども御参詣できない皆様にYouTube配信を行っております。

時代の流れとこのコロナ感染禍の中、ご葬儀やご法事、月忌参りの形態も変わってまいりました。民間葬儀会社会場での家族葬が執

行されますが、お檀家さんからの苦情やお悩み事など聞き、何とか昔ながらの寺院でのご葬儀ができないものかと役員皆様にご相談申し上げました。平成29年完成の『専修の縁』（センジュノエニシ）合祀納骨堂ホールを利用し『専修の縁・家族葬』を立ち上げました。

お寺の僧侶がすべてのかかわりを持ち、ご遺体の搬送・湯灌・通夜・葬儀・還骨そして布施・会場費などのかかるすべての経費を冥加金としてご案内をしております。

またコロナ感染予防の中 公的な機関の会場借りができず、お困りの団体も多く、檀家の方々の使用を目的とした『多目的研修室』の増設も昨年、完成いたしました。この施設は、地元の町内会の会合や催しものの開催・写経教室・月に一度のヨガ教室が行われ女性法務職員がインストラクターをし、約20名ほど町内会の方やお檀家さ

んが参加しております。設備などは納骨堂ロビーに『キッズコーナー』を設け喜ばれています。特に女性用トイレのベビーベット・ベビーチェアの設置など、皆様の視点に立つて発想したいと考えます。

今後の課題は北海道開拓の原点に立ち返り、お檀家さんや地域の皆様に寄り添った活動、なんでもお寺に相談できる信頼と安心と丁寧なかかわりあい体制の組織作りを目標として開かれたお寺を目指してまいります。

最後にご本山より提案頂いてお



センジュノエニシ合祀納骨堂



多目的研修室



ヨガ教室も大盛況



<http://senjunoenishi.com/>



ります、全国各別院とネットでの会議・講習会・講演会の配信とハイブリット講習会などおおいに活用させていただきたいと思えます。遠い北海道にてもリアルタイムの参加が楽しみです。

真宗高田派専修寺北海道別院

輪番 島 光志

行事案内

- 中興真慧上人五百年忌奉讃法会記念シンポジウムⅡ三月十七日
- 讃佛会Ⅱ三月十八日～二十四日
- 写生大会Ⅱ三月十八日～四月二日
- 平等院殿一周忌法会Ⅱ三月二十六日～二十七日
- 花まつりⅡ中止
- 第十四回布教伝道大会Ⅱ四月三日
- 千部法会Ⅱ四月六日～十一日
- 釈迦三尊仏法会Ⅱ四月八日
- 十万人講法会Ⅱ四月九日～十日
- 戦没者追弔法会Ⅱ四月十一日
- 第七十二回檀信徒研修会Ⅱ四月十七日
- 興学布教研究大会Ⅱ四月二十九日
- 堯棋上人御正當Ⅱ五月六日～八日

特別法要

- 開山親鸞聖人誕生八百五十年Ⅱ五月二十一日～二十四日
- 立教開宗八百年Ⅱ五月二十一日～二十四日
- 中興真慧上人五百年忌Ⅱ五月二十五日～二十七日
- 聖徳太子千四百年忌Ⅱ五月二十八日

雲幽園特別公開のご案内（詳細は高田本山HPをご覧ください）
三月十七日公開予定の映画『わたしの幸せな結婚』の撮影に
使用された雲幽園の特別公開を行います

第72回檀信徒研修会のご案内

日時Ⅱ令和5年4月17日（月）9時00分
会場Ⅱ御影堂（受付Ⅱ8時30分）
講演Ⅱ講題「親鸞聖人の聖徳太子讃仰」
正念寺住職 梅林 久高師
講演2Ⅱ内容 太子像解説
教林寺住職 三浦 世雄師
太子堂特別拝観

閉会式Ⅱ12時20分 終了予定
持ち物Ⅱテキスト（受付簿）
初参加の方は受付でお渡しします
参加費Ⅱ1000円（持ち帰り昼食込み）
申込み締切Ⅱ令和5年4月10日（月）締切必着
（宗務院教学課宛）
問い合わせⅡ所属寺院または高田本山宗務院教
学課までお問合せください

写生大会

期間：令和5年3月18日（土）～4月2日（日）

高田本山で絵をかきましょー！！



「竹あかり～浄土のひかり～」がお七夜期間中に初めて開催されました。

■ 写生大会のご案内（詳細は高田本山HPをご覧ください）

- ・ 令和5年三月十八日（土）～四月二日（日）
- 時間…期間中、各日・九時から十五時まで宗務院にて受付
- 場所…高田本山 境内（提出期限は最終日の15時です）
- 対象…幼児から中学生まで（本人が描いたものに限りです）
（高校生以上も可能ですが、審査対象外での受付となります）
- 後援 中日新聞社、一身田商工振興会、高田会館

竹あかり作家である川渕皓平さん監修のもと、幼稚園児や保育園児の描いた子ども竹あかりなど千二百五十個が点灯され、多くの方で賑わいました。

木製靴べらのご寄進がありました。

奉讃法会をお迎えするにあたり、北海道組 専誠寺同行で上富良野町（有）野澤木工製作所の取締役会長 野澤守様から手作りの木製靴べらのご寄進がありました。
その数なんと200本。これからの参詣者数増にむけて大活躍すること間違いなしと、職員一同とても喜んでおります。

合掌



寺院名